

# 足立区青少年委員会だより



区の花：チューリップ

# あだち

第 59 号

平成27年9月17日

編集発行

足立区青少年委員会

広報部

<http://adachi-seishounen.jp>

足立区教育委員会

青少年課

## 年中行事・記念日を大切に作る取り組み…学校や区役所アトリウムに飾りつけをします



子ども達の思い出づくりを手伝います

**青少年委員の活動目標**

夏休みも終わりました。子ども達も一段とたくましくなったことと思います。二十七年度も早いもので半年が過ぎようとしています。青少年委員会も後半の活動がたくさんあります。『あだち区民まつり』のSL運行等、『百人一首大会』、『成人の日の集い』参加や各校の行事・協議会活動地区対活動など盛り沢山です。健康に留意して活動して行きます。

青少年委員活動の根幹は「青少年の健全育成の推進」です。青少年の健全育成とは文字通り次の時代を担う青少年を心身ともに健やかに育成させることですし、育成とは家庭・学校・地域が一体となって環境づくりを促進することです。

これが青少年委員及び青少年委員会の究極の活動目標です。これからも頑張つてまいります。



足立区青少年委員会会長  
北島 一弘

## 研修部の活動

研修部副部長 緑川 勝彦

平素は、研修部の様々な研修会など諸行事にご協力ご参加いただき誠にありがとうございます。

さて、今年度は定野新教育長による講演をメインにしてフォローアップ研修会を開催いたしました。定野教育長のお考えやお人柄を知る良い機会になったのではないかと思います。

また、今年9月末には2年に1度開催しております宿泊研修会がございます。今回は新潟県魚沼市を訪問する予定です。地元の子どもの様子や彼らを支える皆さんの活動を垣間見ることができれば良いと考えております。

鎌田部長を筆頭に私たち研修部員は力を合わせて、皆様に有益な情報を提供できますように企画を立案してまいりますので、何卒ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

## 事業部の活動

事業部長 松崎 顕治

事業部では、通年の事業『年中行事・記念日を大切にしましょう!』として、足立区本庁舎アトリウムに年4回(端午の節句・七夕・お月見・お雛様)飾り付けと区立子ども園、小学校、中学校にポスターを作成し配布しています。

また健全育成団体(教育委員会、小中校長会、小・中PTA連合会、少連協、スポーツ推進委員会、関連団体OB、青少年委員会)の親睦を深める事業として、ソフトボール大会の企画運営を行っています。

『あだち区民まつり』では、各青少年委員が参加する為の準備を進めています。

各事業には「丁寧かつ確実に」を合言葉に、事業部員一同心合わせて一生懸命取り組んでいます。

## ソフトボール大会



活躍しました



定野教育長を囲んで

今号で紹介させていただいた、教育長へのインタビュー、東京未来大学子どもみらい園訪問などの取材を実施して、改めて我々が青少年委員として学校や地域の子どもの為に、何を求められていて、何ができるのだろうかという機会をいただきました。

この様な発見の為に、これからも活発に取材活動を取り入れていきたいと思っております。

皆様の更なるご協力をお願いすることになるかと思いますが、宜しくお願いたします。

広報部長 下島 利代

## 編集後記

## 教育長をお訪ねしました

広報部 大木 通子

六月十七日、北島会長と七名の広報部員が教育長室を訪問しました。我々が伺う直前まで東京都教育委員会の方々と高一新規問題について話しておられたという多忙なスケジュールの中、就任してから学校の授業日数で言うと五十日くらいと笑顔で話される定野司新教育長にお話を伺って頂きました。



法制度が変わり、教育長と教育委員長の一本化により、教育委員会と区長部局の色々な部が連携して、足立の子どもの未来を考えるためにやりやすくなったことや様々な良い面が出ている事を話していただきました。青少年委員に望むことは、「地域の中で自身が成長することです」。座右の銘の『融通無碍』から「川の流れるように石があれば避けて通り、変幻自在、自由自在に

ろいろな現象、人間関係、しがらみを縫って、青少年委員だからできる、青少年委員でなくてはできない事をどう表現するのか、伝え方は難しいがそれぞれの個性でいいと思いますよ」と終始にこやかに話される、生まれも育ちも足立区と言う定野教育長との一時間の懇談はあつという間に過ぎてしまいました。

## 『青少年委員会フォーロアアップ研修会』を終えて

第十ブロック 人見 真吾

五月二十六日、今期、新しく青少年委員を拜命された方々を対象にしたフォーロアアップ研修会が、区庁舎ホールにて定野教育長を講師に迎え行われました。

第一部では、定野教育長が講演の前段で自身の経験談を交え「行政マンとしてハード面だけのサービス充実ではなく、区民の方々の気持ちもくみ取ったソフト面を大事にした行政運営を行いたい」と熱い思いを語っていただき、「子どもたちに明るい未来を成長を実感できる教育を」というテーマで、足立区の現状と施策の話をしていただきました。

現在、足立区は行政改革に力を入れており、経営革新度調査にて全国

第五位となり、今後も改革を緩めず

推進して行くこと力強くお話ししていただきました。そんな中、足立区の子どもの貧困に触れ、教育面では学力と所得の関係が深く関わっている事が統計調査でもわかり、この問題を払拭すべく小学生を対象に様々な施策をここ数年打ち立てました。その結果、近年では、学力と所得の相関が崩れ始め、良い結果が出ているとの報告をしていただきました。今後は中学生も視野に入れ推進をしていくとの事です。

また、高校生になって一年生の夏休み前に中退する子ども達が多くみられ、この問題も急務と考え、区内高校と話し合い、支援をして行きたいと語っていただきました。

定野教育長は、学力（学ぶ力）とは「人の話を聞く力、理解する力、伝える力」と考え、子ども達に学力が備わり夢を持って育ってほしい、そこに青少年委員の皆様が学校や子ども達の支えになってほしいと期待の言葉をいただき、講演会



が終了しました。第二部では、グループ討議を行い、幾つかの議題を元に話し合いが行われました。

討議発表では「青少年委員の役割がわかりづらい」「学校との関わり方が難しい」との意見が出た他「役割を決めつけず、臨機応変に活動する事も良いのでは」「学校と地域のパイプ役として活動する事も大切」など様々な意見が出されました。

今回の研修を経て、教育委員会の今後の方向性を知る事ができ、一緒に力を合わせる事が大切であると確信できたと共に、青少年委員として参加者全員が子ども達の為に何ができるかを改めて考える良い機会をいただきました。お忙しい中、ご講演いただきました定野教育長に改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。



## 講演会

### 「いじめの実態と対策」に参加して

第八ブロック 岡村 佳子

去る六月十一日、第六ブロック教育懇談会の前に講演会を東綾瀬中学校体育館にて開催しました。参加対象者である学校関係者、保護者など二百人近い皆様にお集まりいただき、以前、青少年委員会全体研修会でもお世話になりましたT・I・U総合探偵社代表、阿部泰尚氏をお招きし、いじめの実態と対策について再度、講演をしていただきました。

阿部氏は、いじめの解決二百五十件以上、いじめの相談四千件以上の案件を手がけられ、多くのメディアから取材を受けられています。

「なぜ探偵にいいの？」「恥のか？」「恥ずかしいなどの理由で第三者の方が相談しやすい」「LINEいじめの実態について、スクリーンシ



ョットして証拠を残す」「いじめの構造・成功事例から見える対策方法・嘘の見抜き方」「正面に向き合った状態で目が左を向くとウソ！」など実例を用いて説明していただきました。

対応としては、情報不足・過小報告で判断しない。相談しやすい隙を作る。「子どものずるさ」より「大人の知恵」。証拠の概念。孤立させない。いじめの構造を理解し、サポートする。できる限り時間をかける。（時間はかかる）などだそうです。講演の後にはたくさんの方々から質疑応答もあり、参加された保護者の皆さんにとっては、とても興味深い講演になったと思います。

## 東京未来大学こどもみらい園

広報部 遊馬 正子

足立区綾瀬に東京未来大学「こどもみらい園」が昨年七月に開園しました。発達に悩みを抱える二歳から小学六年生までを対象にしたイノベーションスクール（発達支援塾）です。広報部では六月二十四日にこどもみらい園斉藤幸枝園長（元足立区教育長）に施設見学も兼ね取材を行いました。

「こどもみらい園」では、普通の学

校に通う他の子ども達と比較して足りない部分をどうにかしようという概念はなく、発達の問題をも「その子の個性」と捉え、潜在的能力を伸ばす事に重きを置き、唯一無二の子だけの秀でた才能を開花させることを目標としています。

入園までの流れは、まず初めに臨床心理士による検査（以下アセスメントという）を行います。三回以上の丁寧なアセスメントで客観的に状態を把握し支援計画を策定します。アセスメントの結果からどんなお子さんに合っていると思われるコースであつても無理強いせず、その子の才能をつぶしてしまう可能性があると考え、基本的に興味・関心を持ったコースを優先し選択することを勧めています。

- ① あたまの体操コース
- ② イングリッシュコース
- ③ ITコース
- ④ アートコース
- ⑤ ダンスコース
- ⑥ 体操コース

特性に合わせた六つのコースで、マンツーマンの個別学習からはじめ、コミュニケーションに慣れてきたら二対二で学ぶ総合学習に変更していくこともできます。

この「こどもみらい園」には、足

立区内からの入園者以外に、荒川区・葛飾区などの隣接区や隣接県の千葉や埼玉から通う子ども達も増えてきています。現在は七十五名の子ども達で週に二〜三回通塾しており、土日には名古屋から一年間通っているお子さんもおられます。

施設内には、保護者がほっと一息つける場所として待合室にカフェスペース「ママカフェ」が併設され、無料のコーヒも提供されています。

園長は、やりたいことが見つければ子どもは率先して動くようになる、そんな子どもの変化をみて親も変わる。自己肯定感を大事にすることが大切と話されました。

施設内に掲示されていた子ども達の写真は、どの子も笑顔にあふれ生き生きと輝いていました。

